

報道関係各位

2024年4月15日
株式会社日本アクア
(東証プライム 1429)

アクアフォームが A 種 3 トップの熱伝導率 0.033W/mK を実現 アクアフォーム LITE も熱伝導率が低減、戸建向け主力製品の断熱性能が向上

現場発泡ウレタン断熱材シェア No.1 の株式会社日本アクア（本社：東京都港区、代表取締役社長：中村 文隆）は、戸建向け主力製品のアクアフォーム、アクアフォーム LITE の熱伝導率を以下のとおり低減し、断熱性能の向上を実現いたしました。特に、アクアフォームは現場発泡ウレタン断熱材 A 種 3 クラスにおけるトップの性能となります。この結果、アクアフォームでは既存製品と比較して約 8%の厚みを低減、アクアフォーム LITE では約 5%の厚みを低減します。

	規格	従来	今回
アクアフォーム	JIS A 1480	0.036W/mK	0.033W/mK
アクアフォーム LITE	JIS A 1480	0.038W/mK	0.036W/mK



2022年6月に「脱炭素社会の実現に資するための建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律等の一部を改正する法律」が公布され、住宅や建築物においては、エネルギー効率の改善が求められるようになりました。その結果、断熱性能の向上が重要な課題となっています。断熱性能を高めるためには断熱材の厚みを増やす必要がありますが、一方で住宅設計の自由度に影響を与える可能性があります。具体的には、内部空間の制約、外観の変化、技術的な課題、およびコスト増が考えられ、断熱材の厚みと住宅設計の自由度はトレードオフの関係にあります。

こうした中、日本アクアは前述のように主力製品の厚みを低減することで、東京などの4~7地域における断熱等性能等級5基準（ZEH水準）の下、壁部分の厚みを約85mmで不変とした場合、屋根部分の厚みをアクアフォームで約190mmから約150mm、アクアフォームLITEで約200mmから約180mmに低減できます。また、断熱等性能等級6基準については、従来は上位製品のアクアフォームNEOによる施工で対応していましたが、他の建材等との組み合わせによってはアクアフォームを使った施工も可能となり、当社の製品ラインナップが拡充されます。

さらに、戸建向け断熱材市場で広く使われているグラスウール断熱材（細かいガラスの繊維で構成されており、織物のように密集している点が特徴）で熱伝導率0.033W/mKを実現するには、高性能グラスウール48K（約48kg/m³）相当*が必要であり、14K（約14kg/m³）相当のアクアフォームは軽量性においても住宅設計の自由度が広がります。同様に熱伝導率0.036W/mKを実現するには、グラスウール断熱材32K相当*あるいは高性能グラスウール24K相当*が必要であり、アクアフォームLITEなら10K相当となります。なお、新仕様の両製品は2024年4月以降、順次出荷されます。

*グラスウール断熱材及び高性能グラスウールの密度は硝子繊維協会ホームページ記載データを参考に当社が作成。

以上

【会社概要】

会社名：株式会社日本アクア

上場市場：東京証券取引所 プライム市場（証券コード：1429）

代表者：代表取締役社長 中村 文隆

所在地：東京都港区港南2丁目16-2 太陽生命品川ビル20階

設立：2004年11月

事業内容：建築断熱用硬質ウレタンフォーム「アクアフォーム」販売・施工
住宅省エネルギー関連部材の開発・製造・販売

URL：<https://www.n-aqua.jp>

【お問い合わせ先】

株式会社日本アクア 管理本部 経営企画部 小室 昌彦

電話番号：03-5463-1117

Eメール：m.komuro@n-aqua.com